

蔵持重裕先生の略歴と主要業績

略歴

一九四八年	四月	東京都足立区に生まれる
一九六七年	三月	東京都立京橋高等学校卒業
一九六七年	四月	立教大学文学部史学科入学
一九七二年	三月	立教大学文学部史学科卒業
一九七二年	四月	株式会社新日本出版社入社（一九七五年一二月まで）
一九七七年	四月	立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程入学
一九七九年	三月	立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了
一九七九年	四月	一橋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程入学
一九八二年	三月	一橋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学
一九八一年	四月	国立歴史民俗博物館共同研究員（一九八七年三月まで）
一九八二年	四月	一橋大学経済学部助手（一九八三年三月まで）
一九八三年	四月	立教大学文学部非常勤講師（一九九六年三月まで）
一九八三年一〇月		豊島区立郷土資料館社会教育指導員（一九八七年一月まで）
一九八五年	四月	立教大学一般教育部非常勤講師（一九九四年三月まで）
一九八六年	四月	静岡県小山町史編纂専門委員（一九九五年三月まで）
一九八八年	四月	一橋大学非常勤講師（一九九四年三月まで）
一九九〇年	四月	本郷高等学校非常勤講師（一九九四年九月まで）
一九九二年	四月	相模女子大学文学部・短期大学部非常勤講師（一九九四年九月まで）

一九九四年	四月	立教大学大学院文学研究科非常勤講師（一九九五年三月まで）
一九九四年一〇月		滋賀大学経済学部附属史料館助教授（一九九八年三月まで）
一九九四年一〇月		滋賀県彦根市史専門部会委員（二〇〇二年三月まで）
一九九七年	四月	滋賀県近江八幡市文化財保護審議会委員（一九九九年三月まで）
一九九七年	四月	国文学研究資料館助教授（併任）（一九九九年三月まで）
一九九八年	四月	滋賀大学経済学部助教授（一九九八年六月まで）
一九九八年	三月	博士学位取得（文学 立教大学）
一九九八年	七月	滋賀大学経済学部教授（一九九九年三月まで）
一九九九年	四月	立教大学文学部教授
二〇〇〇年	四月	国文学研究資料館共同研究員（二〇〇八年三月まで）
二〇〇一年	四月	聖徳大学非常勤講師（二〇〇三年三月まで）
二〇〇三年	四月	聖徳大学通信教育学部非常勤講師
二〇〇四年	四月	立教大学文学部史学科長（二〇〇六年八月まで）
二〇〇四年	四月	慶應義塾大学文学部非常勤講師（二〇〇六年三月まで）
二〇〇七年	四月	立教大学大学院文学研究科史学専攻主任（二〇〇九年三月まで）
二〇〇七年	四月	立教大学日本学研究所長（二〇〇九年三月まで）
二〇〇八年	七月	東北学院大学非常勤講師
二〇〇八年一二月		新座市文化財保護審議会委員
二〇一四年	三月	立教大学退職
二〇一四年	六月	立教大学名誉教授

藏持重裕先生の略歴と主要業績

研究業績

【著書・共編著】

- 『三芳町史 通史編』〔編著〕（埼玉県三芳町、一九八六年二月）
『豊島・宮城文書』〔編著〕（豊島区立郷土資料館、一九八八年三月）
『小山町史 第一巻原始古代中世資料編』〔編著〕（静岡県小山町、一九九〇年三月）
『大畑町史』〔編著〕（青森県大畑町、一九九二年二月）
『小山町史 第六巻原始古代中世通史編』〔編著〕（静岡県小山町、一九九六年三月）
『日本中世村落社会史の研究』〔單著〕（校倉書房、一九九六年十一月）
『新修彦根市史 第五巻史料編 古代・中世』〔編著〕（彦根市、二〇〇一年三月）
『中世村の歴史語り』〔單著〕（吉川弘文館、二〇〇二年九月）
『莊園と村を歩くⅡ』〔編著〕（校倉書房、二〇〇四年十一月）
『歴史をよむ』〔編著〕（東京大学出版会、二〇〇四年十一月）
『中世村落の形成と村社会』〔單著〕（吉川弘文館、二〇〇七年四月）
『声と顔の中世史 戦さと訴訟の場景より』〔單著〕（吉川弘文館、二〇〇七年五月）
『再考中世莊園制』〔編著〕（岩田書店、二〇〇七年一〇月）
『中世の紛争と地域社会』〔編著〕（岩田書店、二〇〇九年五月）
『紛争史の現在』〔編著〕（高志書院、二〇一〇年一〇月）

【論文】

- 『「百姓申状」の性格について』『立教日本史論集』（創刊号、一九八〇年一月）
『「莊園古老法」の展開と莊園制—太良莊における検断—』『歴史評論』（三七四号、一九八一年六月）後に『展望日本歴史』一〇南北朝内乱 所収（東京堂出版、二〇〇〇年二月）

「太良荘における名主家族結合と名主職」『歴史学研究』（五〇六号、一九八二年七月）後に『日本家族史論集5家族の諸相』所収（吉川弘文館、二〇〇二年九月）

「豊島氏領域における豊島区域」豊島区立郷土資料館紀要『生活と文化』（二号、一九八五年八月）

「中世史における地域史研究の動向」『地方史研究』（二〇〇号、一九八六年四月）

「尋沙汰について」豊島区立郷土資料館紀要『生活と文化』（二号、一九八六年二月）

「江戸期の川口屋」豊島区立郷土資料館紀要『生活と文化』（二号、一九八六年二月）

「中世古老の機能と様相」『歴史学研究』（五六三号、一九八七年一月）

「中世の土地所有観と名田」『史苑』（四六卷一・二号、一九八七年五月）

「戦後マンガ史の一局面」『歴史評論』（四四九号、一九八七年九月）

「小山町の宝篋印塔・五輪塔（一）」『小山町の歴史』（二号、一九八八年三月）

「富士本宮浅間神社蔵「富士参詣曼荼羅」について」『小山町の歴史』（二号、一九八八年三月）

「豊島・宮城文書について」『豊島・宮城文書』（豊島区郷土資料館、一九八八年三月）

「地域史と歴史研究」『国分寺市公民館だより』（二七九号、一九八九年二月）

「一九八九年度歴史学研究大会坂田報告批判」『歴史学研究』（六〇一号、一九八九年二月）

「大田荘故地赤屋村における近世初期の耕地形態と動態」『国立歴史民俗博物館研究紀要』（二八集、一九九〇年三月）

「大田荘故地における百姓屋敷」『国立歴史民俗博物館研究紀要』（二八集、一九九〇年三月）

「内乱期の社会変動」『古文書の語る日本史 4 南北朝室町』（筑摩書房、一九九〇年五月）

「中世村落をいかに把握するか」『争点日本の歴史 第4卷中世編』（新人物往来社、一九九一年二月）

「小山町域の宝篋印塔・五輪塔について」『小山町の歴史』（五号、一九九一年三月）

「大慈恩寺の紛失状」本郷中等学校紀要『塔影』（二四集、一九九一年三月）

「村落における公と私」『日本村落史講座第6卷生活Ⅰ』（雄山閣、一九九二年一月）

「村落と女性」『中世を考える家族と女性』（吉川弘文館、一九九二年四月）

藏持重裕先生の略歴と主要業績

- 「刈田狼藉の本源 日本中世における土地と人の関係」『中世の発見』（吉川弘文館、一九九三年四月）
- 「年貢・公事をめぐる領主と村落の関係をどうみるか」『新視点日本の歴史 4 中世編』（新人物往来社、一九九三年六月）
- 「菅浦の清九郎」『日本の歴史を解く一〇〇人』（文英堂、一九九五年九月）
- 「村落史の視点から「地域論」を考える」『日本史研究』（四〇七号、一九九六年七月）
- 「海浜の荘園」『荘園と村を歩く』（校倉書房、一九九七年六月）
- 「菅浦惣成立の特質」『悪党の中世』（岩田書店、一九九八年三月）
- 「中世の村と情報」『歴史学研究』（七一六号、一九九八年一〇月）
- 「中世村落と和泉国黒鳥村」『村のなかの古代史』（岩田書店、二〇〇〇年三月）
- 「山地葛川の「堺相論」と村落」『山間村落における交流の総合的研究』（文部省科学研究費補助金 基盤研究C一課題番号一〇六一〇三三五代表小林一岳、二〇〇一年二月）
- 「中世石造物と惣墓の研究」『福武学術文化振興財団平成二二年度年報』（二〇〇一年十一月）
- 「海洋社会として対馬」『島嶼文化』（二〇号、二〇〇二年八月）
- 「中世の木嶋地域の村と座について」『開発・環境の変化による山村・里村間の情報・交流と摩擦の研究』（平成二二―四年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書（課題番号一二六一〇三三四）、代表藏持重裕、二〇〇三年三月）
- 「対馬調査報告 対馬の村を追って」『立教大学日本学研究所年報』（二号、二〇〇三年三月）
- 「初期代官の豊島氏」『豊島氏編年史料Ⅲ』（豊島区郷土資料館、二〇〇三年三月）
- 「民衆生活の基底」『講座日本荘園史 3 荘園の構造』（吉川弘文館、二〇〇三年五月）
- 「在村給人初村氏の知行地について」『荘園と村を歩くⅡ』（校倉書房、二〇〇四年十一月）
- 「顔と平和」『歴史をよむ』（東京大学出版会二〇〇四年十一月）
- 「日本中世の商業関係文書について」東京外国語大学大学院地域文化研究科21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化拠点」『史資料ハブ 地域文化研究』（七号、二〇〇六年三月）
- 「荘園制・中世社会について―所有論の視点から―」『再考中世荘園制』（岩田書店、二〇〇七年一〇月）

「和知荘における下地中分と地頭片山氏」『山間荘園の地頭と村落』（岩田書店、二〇〇七年十二月）

「コラム 日本中世村落」『中近世アーカイブズの多国間比較』（岩田書店、二〇〇九年四月）

「国人領主の憂いと浮かれ 煌めく都からのたより―波多親の手紙―」立教大学人文叢書5『書簡を読む』（春風社、二〇〇九年一〇月）

「紛争の解決と階級関係」『中世の紛争と地域社会』（岩田書店、二〇〇九年五月）

「むすびにかえて」『紛争史の現在』（高志書院、二〇一〇年一〇月）

「禪定寺領の山野と村人」『京郊圏の中世社会』（高志書院、二〇一一年九月）

「金を掘る村の人々の成り立ち ノート」『産金村落と奥州の地域社会』（岩田書店、二〇一二年十一月）

「中世社会の特質を再確認する―大会報告を聞いて―」『史苑』（七二巻二号、二〇一二年三月）

「永祿十一年菅浦壁書について」『滋賀大学経済学部付属史料館研究紀要』（四六号、二〇一三年三月）

「敗北」の惣村」『立教大学日本学研究所年報』（二〇・一一合併号、二〇一三年三月）

「二〇一二年国際シンポジウム「日本学の現在と未来」総括 第一セッション「アジアへの視点と言説」総括」『立教大学日本学研究所年報』（二二号、二〇一四年七月）

「近江国大浦の浦法と幕府権力」『立教大学日本学研究所年報』（二二号、二〇一四年七月）

【書評】

「稲垣泰彦著『日本中世社会史論』『歴史学研究』（五〇九号、一九八二年一〇月）

「山本隆志『荘園制の展開と地域社会』『日本史研究』（三九五号、一九九五年七月）

【その他】

『絵で読む日本の歴史 三 武士と農民』〔編著者〕（大月書店、一九九〇年一月）

『絵で読む日本の歴史 別巻 解説』（大月書店、一九九〇年一二月）

【史料調査報告】

- 「中世菅浦文書について（一）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（二八号、一九九五年三月）
「中世菅浦文書について（二）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三〇号、一九九七年三月）
「中世菅浦文書について（三）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三一号、一九九八年三月）
「中世菅浦文書について（四）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三二号、一九九九年三月）
「中世菅浦文書について（五）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三四号、二〇〇一年三月）
「中世菅浦文書について（六）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三六号、二〇〇三年三月）
「中世菅浦文書について（七）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四一号、二〇〇八年三月）
「中世菅浦文書について（八）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四二号、二〇〇九年三月）
「中世菅浦文書について（九）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四三号、二〇一〇年三月）
「中世菅浦文書について（一〇）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四五号、二〇一二年三月）
「中世菅浦文書について（一一）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四七号、二〇一四年三月）